

アメリカと中国の外交トップの会談が
18日午後＝日本時間の
きょう（19日）午前、

アメリカのアラスカ州
アンカレジで始まりました。

アメリカのブリンケン国務長官は、
香港（ホンコン）や

台湾（タイワン）を巡る
中国の威圧が、

「世界の安定を維持する
ルールに基づく秩序を
脅かしている」と批判し、

アメリカや同盟国などの
中国への不安を幅広く取り上げる
考えを示しました。

これに対して中国側は
「内政干渉だ」と反発し、
非難の応酬となりました。

アメリカと中国の高官の
対面形式での会談は
アメリカのバイデン政権が
発足した後初めてで、

アメリカ側はブリンケン国務長官と
ジェイク・サリバン
国家安全保障担当
大統領補佐官が出席し、

中国側は楊潔チ（よう・けつち）

共産党政治局員と王毅（おう・き）

国務委員兼外相が出席しました。

会談は19日まで行いますが、

共同声明は発表しない見通しです。

日本と韓国を歴訪した帰りに

アンカレジ入りした

ブリンケン国務長官は

会談の冒頭で、

「取り上げる問題は、

アメリカと中国だけでなく

地域全体に関連することだ」と

指摘しました。

一方、中国側は楊潔チ政治局員が、

アメリカ側の問題視する

香港や台湾への威圧、

新疆（しんきょう）ウイグル自治区の

少数民族への迫害について、

「いずれも中国の領土の一部で、

アメリカの介入に

断固反対する」と

主張しました。

止め